

令和5年度沖縄振興特別推進交付金事業（県分）検証シート【公表用】

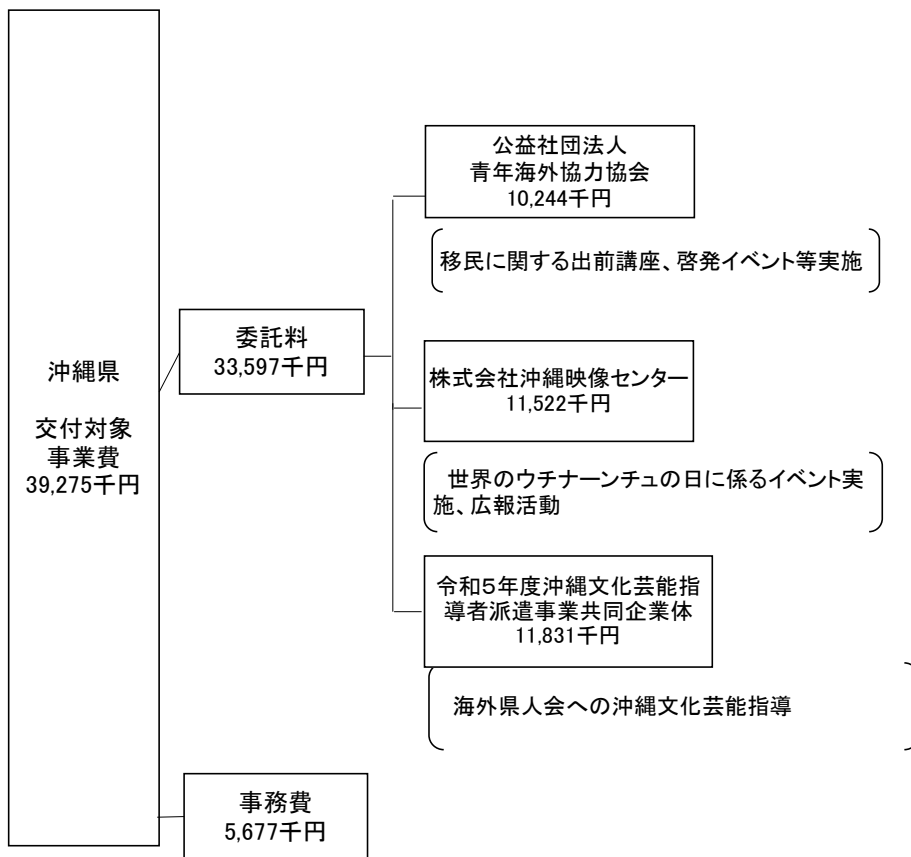
事業番号・事業名	166	世界のウチナーネットワーク強化推進事業		新沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所 (第4章)	4-(2)-ア-①		
担当部課名	文化観光スポーツ部 交流推進課	事業実施 (予定)年度	H29～R13 年度	沖縄振興基本方針 該当箇所	国内外のウチナーンチュとの絶え間ない交流 Ⅲ-7		
事業内容	「世界のウチナーンチュの日」が制定されたことを踏まえ、同記念日の定着化に向けた取組みを推進することで、ウチナーネットワークの継承・発展・強化を図る。具体的にはSNSやWEBサイト及び各種メディアを活用した周知広報活動等を展開し、併せて、世界を舞台に活躍するウチナーンチュを招聘したトークイベントや、移民の歴史を題材とした演劇公演及び移民の歴史等に関する出前講座、並びに海外県人会イベントへの芸能指導者派遣等を実施する。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】		R3年度	R3年度(繰越)	R4年度	R4年度(繰越)	R5年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	24,913		290,668		41,947
		(b) 予算現額	24,913		290,668		41,947
		(c) 増減額(b-a)	0	0	0	0	0
		(d) 前年度繰越額					
		A. 計(b+d)	24,913	0	290,668	0	41,947
	執行率(%) (B/A)	B. 執行済額	24,510		290,592		39,275
		うち交付金充当額	19,608		232,473		31,419
		C. 次年度繰越額	0		0	0	0
	予算の状況の説明	本事業はH29年度からスタートしており、執行状況も毎年度90%超で順調に執行している。					
活動目標 (指標) 及び進捗状況	R5活動目標(指標)		進捗状況				
			R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	
	①「世界のウチナーンチュの日」のイベント実施	目標	イベントの実施	イベントの実施	イベントの実施	イベントの実施	
		実績	イベントを実施した	イベントを実施した	イベントを実施した	イベントを実施した	
	②各種広報媒体を活用した「世界のウチナーンチュの日」の広報活動の実施	目標	広報活動の実施	広報活動の実施	広報活動の実施	広報活動の実施	
		実績	広報活動を実施した	広報活動を実施した	広報活動を実施した	広報活動を実施した	
	③県内や海外の若者を中心とした次世代討論会を開催する。	目標	-	-	-	次世代討論会の実施	
		実績	-	-	-	次世代討論会を実施した	
	④「世界のウチナーンチュの日」に関連して海外県人会が主催するイベントに、沖縄からの芸能指導者を派遣する。	目標	指導者の派遣	指導者の派遣	指導者の派遣	指導者の派遣	
		実績	指導者を派遣した	指導者を派遣した	指導者を派遣した	指導者を派遣した	
⑤学校等における出前講座の実施及び講座等の実施を担う講師の養成	目標	出前講座の実施及び講師の養成	出前講座の実施及び講師の養成	出前講座の実施及び講師の養成	出前講座の実施及び講師の養成		
	実績	出前講座及び講師の養成を行った	出前講座及び講師の養成を行った	出前講座及び講師の養成を行った	出前講座及び講師の養成を行った		
進捗状況説明	本事業では、10月30日「世界のウチナーンチュの日」を中心にイベントを開催した。 ①世界で活躍するウチナーンチュによるトークイベントを10月30日に開催した。 ②SNSやホームページ等を活用して、ウチナーンチュの日の広報活動を実施した。 ③次世代討論会を1月28日にオンラインにて実施した。 ④ブラジル、カナダ、オーストラリア、アメリカへ沖縄文化芸能指導者を派遣した。 ⑤小中学校及び高校等において出前講座を実施したほか、指導者養成講座も実施した。						

成果目標 (指標) 及び達成状況	R5成果目標(指標)	基準値 (〇〇年度)	R3年度	R4年度	R5年度	目標値 (〇〇年度)
	①来場者に対し、世界各地に存在するウチナーンチュへの興味・関心が高まったか(80%以上)を含め、当該事業のあり方をアンケートにより検証する。	目標		80%	80%	80%
実績			100%	99%	95%	
②世界のウチナーネットワークWEBサイトアクセス数	目標		-	-	26,000件	
	実績		-	-	27,054件	
③参加者に対し、ウチナーネットワークの継承・発展について興味・関心が高まったか(80%以上)についてアンケートにより検証する。	目標		-	-	80%	
	実績		-	-	100%	
④派遣先の県人会における沖縄の文化芸能に対する興味・関心が高まったか(80%以上)を含め、当該事業のあり方をアンケートにより検証する。	目標		80%	80%	80%	
	実績		80%	100%	98%	
⑤年間受講者数	目標		-	-	500人	
	実績		-	-	1,349人	
⑤-2受講者に対し、沖縄の移民の歴史、世界各地の県系人について理解が深まったか(80%以上)を含め、当該事業のあり方をアンケートにより検証する。	目標		80%	80%	80%	
	実績		100%	100%	81%	
達成状況説明	<p>①は、アンケートの結果、95%が世界のウチナーンチュの日に関する関心が高まったとの回答し、目標を達成した。</p> <p>②は、WEBアクセス数が27,054件となり目標を達成した。</p> <p>③は、アンケートの結果、100%がウチナーンチュとの交流促進について関心が高まったと回答し、目標を達成した。</p> <p>④は、アンケートの結果、98%が沖縄の文化芸能に対する興味・関心が高まったと回答しており、目標を達成した。</p> <p>⑤は、受講者数が1,349人となり、目標を達成した。</p> <p>⑤-2は、アンケートの結果、81%が移民の歴史等に対して理解が深まったと回答しており、目標を達成した。</p>					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<p>・10月30日前後だけでなく、日常的に世界のウチナーンチュと繋がる機会を増やし、世界のウチナーンチュの日の認知度向上に取り組む必要がある。</p>	<p>・他の事業との連携を強化し、国内外のウチナーンチュが繋がる機会を増やす。</p>
今後の取り組み方針		
<p>・国内外から気軽に参加しやすいイベントを検討するとともに、継続的な情報発信に加え、特に10月30日前後は周知広報に注力する。</p>		

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	うち交付金充当額	うち県負担金	うち市町村負担金	その他	交付対象外経費
39,274	39,274	31,419	7,855	0	0	0



資金の 使途の 流れ・ 費目・ 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	<p>○委託事業者は公募型プロポーザル方式により企業組織、実績、知識等を勘案した上で選定しており、妥当であったと考えている。</p> <p>○費目、使途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。</p>
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

令和5年度沖縄振興特別推進交付金事業（県分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	179 国際性に富む人材育成事業	事業実施（予定）年度	H24～R13 年度	新沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所（第4章）	4-(2)-ア-②		
担当部課名	教育委員会 県立学校教育課			沖縄振興基本方針該当箇所	交流の架け橋となる人づくり		
事業内容	世界の多様な地域への長期海外留学、交流先や目的について焦点化した短期海外研修、ICTを活用した海外生徒とのオンライン国際交流を実施し、高い専門性を備えた世界で活躍するグローバル人材の育成及び多文化共生型社会の基盤づくりを図る。 ・長期海外留学R6年度派遣生徒の選考及び事前研修の実施 ・令和5年度派遣生の海外派遣 ・短期海外研修の実施 ・アジア高校生オンライン国際交流プログラム						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度（ 年度）						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他（ ）						
予算額・執行額【単位：千円】		R3年度	R3年度（繰越）	R4年度	R4年度（繰越）	R5年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	132,975		76,384		129,313
		(b) 予算現額	132,975		76,384		129,313
		(c) 増減額 (b-a)	0	0	0	0	0
		(d) 前年度繰越額					
		A. 計 (b+d)	132,975	0	76,384	0	129,313
		B. 執行済額	76,415		71,242		125,986
		うち交付金充当額	61,132		56,993		100,788
		C. 次年度繰越額			0	0	0
		執行率 (%) (B/A)	57.5%		93.3%		97.4%
	予算の状況の説明	過去2年度と比較すると予算執行率は97.4%と、おおむね計画通りに事業を実施することができた。					
活動目標（指標）及び進捗状況	R5活動目標（指標）		進捗状況				
			R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	
	沖縄県高校生の海外派遣（長期留学派遣者数）	目標	—	—	—	20人	
		実績	—	—	—	20人	
	沖縄県高校生の海外派遣者数 ・短期海外研修 ・R3、4は代替研修参加者を含む	目標	—	214人	214人	84人	
		実績	—	—	206人	79人	
	沖縄県高校生オンライン国際交流参加者数	目標	—	—	100人	4県内高校生200名、 海外高校生200名	
実績		—	—	86人	県内高校生230名、 海外高校生111名		
進捗状況説明	・長期留学は、新型コロナウイルス感染症の影響により、R2～3年度は実施なし。 ・短期海外研修は、新型コロナウイルス感染症の影響により、R2年度は実施なし、R3、4年度は一部で代替研修を実施した。 ・高校生オンライン国際交流は、R4年度からの実施であるため、R2、3年度の実績なし。 ・令和5年度はすべての事業を順調に実施することができた。沖縄県高校生オンライン国際交流参加者数においては、海外高校生の目標値を上回ることができなかった。今後は海外高校に対する広報活動等、周知方法の検討をしていく必要がある。						
成果目標（指標）及び達成状況	R5成果目標（指標）		基準値 （〇〇年度）	R3年度	R4年度	R5年度	目標値 （〇〇年度）
	短期海外研修参加者のCEFR B1到達率	目標			50%		
		実績			0		
	アジア高校生オンライン国際交流参加者のCEFR B1到達率	目標			50%		
		実績			0%		
	【R5成果目標】短期海外研修参加者アンケート調査の実施（参加者満足度）	目標				80%	
		実績				99%	
	【R5成果目標】短期海外研修参加者アンケート調査の実施（留学意識の向上）	目標				80%	
		実績				98%	
	【R5成果目標】アジア高校生オンライン国際交流アンケート調査の実施（参加者満足度）	目標				80%	
実績					96%		
【R5成果目標】アジア高校生オンライン国際交流アンケート調査の実施（留学意識の向上）	目標				80%		
	実績				78%		
達成状況説明	【海外短期研修】【オンライン国際交流】 ・4つの細事業に分かれる中で、CEFRという1つの指標で成果目標（指標）を達成することは難しい。また、研修期間が2週間と非常に短期間であり、この研修の参加によってCEFR評価を目に見えて向上させることも難しい。 以上のことから、令和5年度はCEFRでの指標から参加者の意識の変容を調査するためのアンケート調査に変更した。 ・アンケート調査の結果、アジア高校生オンライン国際交流事業における「留学意識の向上」において、目標値に達することができなかったことから、海外高校生との交流時間を増やしたりするなど、事業内容について検討をしていきたい。						

推進上の留意点 (推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証 (効率の更なる向上の視点)
<p>取組の検証</p> <p>【グローバル・リーダー育成海外短期研修】</p> <p>①現地研修において積極的に研修へ取り組み意欲を育むため、事前研修ではコミュニケーションツールとしての語学力を身につける研修や異文化理解について学ばせる必要がある。</p> <p>②研修先において現地大学での講義やホームステイ先でのコミュニケーション等を考え、語学力の高い生徒や積極性のある生徒を選考する必要がある。</p> <p>③新たに委託される業者が、前年同様に選考試験、事前事後研修、本研修に係る業務、現地での緊急対応、精算業務を円滑に行えるよう、連絡調整を密に行う必要がある。</p> <p>【アジア高校生オンライン国際交流】</p> <p>①事業への参加も生徒の任意に任されており、強制力が弱く、奨学金のように目に見える形の恩恵がないため、参加生徒の動機もバラバラである。</p> <p>②新型コロナウイルスの影響も弱まり、対面型の留学や交流を希望する生徒が多くなる中で、事業運営に工夫が必要である。</p>	<p>【グローバル・リーダー育成海外短期研修】</p> <p>①事前研修等において現地研修先講師を活用した語学研修の充実や異文化理解について前年度派遣生や留学生等による体験談から生活習慣の違いなどを学ばせる必要がある。</p> <p>②実践的なコミュニケーション能力を測るため、英語試験や面接試験において語学力、積極性を測る選考試験を実施する必要がある。</p> <p>③委託業務の円滑な実施や、外務省および大使館等からの海外渡航情報入手が迅速に行えるよう、委託業者や現地事務所等との連携を図る。</p> <p>【アジア高校生オンライン国際交流】</p> <p>①令和5年度の参加者は令和4年度の2倍の生徒(海外高校生200名、県内高校生200名)が参加したため、各グループに対する細かなサポートが十分に行き届かないことがあった。令和6年度は上記の問題を解決するために令和4年度の参加者数に戻す必要がある。</p> <p>②短期留学、長期留学に繋がる身近な留学制度と捉え、参加生徒に対する動機付けを県立学校の行事と関連付けながら裾野を広げる。</p>

今後の取り組み方針

【グローバル・リーダー育成海外短期研修】

①現地研修をより深い学びへと繋げるため、ホームステイや学校生活を想定した英語運用能力をより高める研修や異文化理解についての事前研修の実施。

②実践的な外国語コミュニケーション能力を測る英語試験や面接試験内容の構築。

③受託業者と現地での緊急時を含めた対応・体制について、綿密な報告・連絡・相談を行う。

【アジア高校生オンライン国際交流】

①アジア参加国を昨年度の7カ国から拡充していきたい。

②JICAや沖縄コンベンションビューローといった外部団体の有効活用及び連携の模索を行う。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付先				交付対象外経費
		うち交付金充当額	うち県負担金	うち市町村負担金	その他	
125,986	125,986	100,788	25,198	0	0	0

<p>沖縄県</p> <p>交付対象事業費</p> <p>125,986千円</p>	<p>報償費 58千円</p> <p>業務委託・派遣生選定委員への報償費</p>	
	<p>委託料 124,240千円</p>	<p>(公財)日本国際生活体験協会 7,738千円</p> <p>令和5年度派遣生に係る派遣・滞在業務</p>
		<p>(公財)日本国際生活体験協会 48,382千円</p> <p>令和5年度派遣生に係る募集・選考業務</p>
		<p>(公財)日本国際生活体験協会 19,386千円</p> <p>令和5年度米国モンタナ州への派遣生の募集・選考・派遣に係る業務</p>
		<p>株式会社チャイナゲートウェイ 6,695千円</p> <p>令和5年度中国への派遣生の募集・選考・派遣に係る業務 ※令和4年度はオンラインによる代替研修業務</p>
		<p>株式会社農協観光 17,405千円</p> <p>令和5年度オーストラリアへの派遣生の募集・選考・派遣に係る業務</p>
		<p>(株)近畿日本ツーリスト沖縄 9,009千円</p> <p>令和5年度ハワイ州への派遣生の募集・選考・派遣に係る業務</p>
		<p>(特非)沖縄平和協力センター 15,625千円</p> <p>アジア高校生オンライン国際交流事業に係る業務</p>
	<p>旅費 1,688千円</p> <p>国際性に富む人材育成留学事業、グローバル・リーダー育成海外短期研修事業(アメリカ高等教育体験研修、中国教育交流研修、専門高校生国外研修、沖縄県高校生海外雄飛プログラム)、アジア高校生オンライン国際交流に係る旅費</p>	

資金の流し、点検、評価	評価	点検項目	評価に関する説明
資金の流し、点検、評価	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託事業者は公募型プロポーザル方式により企業組織、実績、知識等を勘案した上で選定しており、妥当であったと考えている。 ○費目・使途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即真に必要なものに限定されているか。	

令和5年度沖縄振興特別推進交付金事業（県分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	184	「琉球・沖縄の知と心」国際発信事業		新沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所 (第4章)	4-(2)-ア-①		
担当部課名	教育委員会 生涯学習振興課 (図書館)	事業実施 (予定)年度	H31～R13 年度	沖縄振興基本方針 該当箇所	国内外のウチナーンチュとの絶え間ない交流 Ⅲ-7		
事業内容	県立図書館が、世界のウチナーンチュネットワークの継承と発展を図るため、海外・国内での移民関係資料収集、移民ルーツ調査及び移民関係講演会を実施する。また、郷土資料企画展を実施する。						
効果発現年度	■当年度 □後年度(年度)						
実施方法	■直接実施 ■委託 □補助 □負担 □その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】		R3年度	R3年度(繰越)	R4年度	R4年度(繰越)	R5年度	
	予算 の 状 況	(a) 当初予算額	18,590		20,629		19,588
		(b) 予算現額	18,590		20,629		19,588
		(c) 増減額(b-a)	0	0	0	0	0
		(d) 前年度繰越額					
	A. 計(b+d)		18,590	0	20,629	0	19,588
	B. 執行済額		17,647		18,848		18,212
	うち交付金充当額		14,118		15,079		14,569
	C. 次年度繰越額				0	0	0
	執行率(%) (B/A)		94.9%		91.4%		93.0%
予算の状況の説明		・執行率は93.0%であり、主に旅費(費用弁償)等の執行残が発生したことによるものである。					
活動目標 (指標) 及び進捗状況	R5活動目標(指標)		進捗状況				
			R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	
	移民ルーツ調査の実施	目標	300件	50件	150件	150件	
		実績	42件	61件	513件	621件	
	移民資料収集実施地域 (R3まで移民資料の収集点数)	目標	400点	100点	1地域	1地域	
		実績	308点	151点	1地域	1地域	
	沖縄の歴史・文化関連講演会の実施	目標	7回	3回	2回	1回	
		実績	6回	3回	2回	2回	
	沖縄の歴史・文化関連郷土資料企画展示の実施	目標	42回	36回	2回	1回	
		実績	40回	49回	3回	3回	
進捗状況説明	・移民ルーツ調査については、ブラジル・サンパウロ市及びカンボグランデ市で、移民ルーツ調査を実施し目標を多く上回った。 ・移民資料収集実施地域については、ブラジル・サンパウロ市で資料収集を行った。 ・移民関係展示及び講演会は、展示を3回、講演会を2回開催し、どちらも目標を上回った。						
成果目標 (指標) 及び達成状況	R5成果目標(指標)		基準値 (〇〇年度)	R3年度	R4年度	R5年度	目標値 (〇〇年度)
	ルーツ調査等の受付体制の構築(現地における周知等)	目標			1地域	1地域	
		実績			1地域	1地域	
	資料調査・収集を完了した地域数	目標			1地域	1地域	
		実績			1地域	1地域	
	展示・講演会参加者・オンライン展示閲覧者 アクセス数	目標		80%	3,100人	3,100人	
		実績		99%	17,979人	12,479人	
	達成状況説明	・成果目標である「ルーツ調査等の受付体制の構築」については、ブラジル・サンパウロ市で県人会と共同でルーツ調査等を行い、現地における周知を図り、目標を達成した。 ・成果目標である「資料調査・収集を完了した地域数」については、ブラジル・サンパウロ市で実施し、目標を達成した。 ・成果目標である「館内展示・講演会参加者・オンライン展示の閲覧者総アクセス数」については、渡航記録データベースの閲覧者数が大きく増加し、目標を達成した。 ・令和3年度までは、沖縄の歴史・文化への理解度等についてのアンケートによる検証だった。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<p>・成果目標である「館内展示・講演会参加者・オンライン展示の閲覧者総アクセス数」については、令和4年7月に公開した沖縄県系移民渡航記録データベースや令和5年度オンライン多言語講演会の開催により、目標を大きく上回った。</p>	<p>沖縄県系移民渡航記録データベースは、関係機関と連携し記録の追加、修正を行い、充実を図る。</p>
今後の取り組み方針		
<p>令和6年度は、沖縄県系移民渡航記録データベースのアクセス数を向上を図るため、海外県人会等へ広報を充実を図る。</p>		

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	うち交付金充当額	うち県負担金	うち市町村負担金	その他	交付対象外経費
18,212	18,212	14,569	3,643	0	0	0

<p>沖縄県 交付対象事業費 18,212千円</p>	<p>委託料 2,448千円</p>	<p>沖縄セルラーA&M 803千円 〔Webサイト構築〕</p>	<p>Nansei 924千円 〔複製本作製〕</p>
		<p>久永情報マネジメント 198千円 〔複製本作製〕</p>	<p>久永情報マネジメント 347千円 〔テキスト化・複製本作製〕</p>
		<p>沖縄インターオシャンサービス 77千円 〔海外調査コーディネート〕</p>	<p>WYUA 99千円 〔ルーツ調査ブース出展〕</p>
	<p>報酬 8,890千円 共済費 1,653千円 職員手当等 1,774千円</p>	<p>〔 移民ルーツ調査、資料整理等に係る会計年度任用職員(奉仕員2名、事務補助員1名)報酬、社会保険料、期末手当など 〕</p>	
	<p>旅費 3,114千円</p>	<p>〔 海外・国内移民資料調査・収集等旅費及び会計年度任用職員(奉仕員2名)の通勤手当、講演会講師旅費(2名) 〕</p>	
	<p>事務費 333千円</p>	<p>〔 報償費、需用費 〕</p>	

資金の流し、評価	評価	点検項目	評価に関する説明
資金の流し、評価	○	支出先の選定方法は妥当か。	
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○委託事業者は、県財務規則に基づき相見積もり等によって選定したため、妥当であったと考える。
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費用、用途については、事業報告書等を検査し、適正であることを確認した。
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

令和5年度沖縄振興特別推進交付金事業（県分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	10	ハワイ東西センター連携事業	新沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所 (第4章)	4-(2)-ウ-①			
担当部課名	企画部 科学技術振興課	事業実施 (予定)年度	H26～R13 年度	観光交流、経済交流等の推進			
事業内容	グローバル化の進展や多様化・複雑化する社会ニーズに対応できる国際的な視野を持った人材を育成するとともに、アジア太平洋諸国とのネットワーク形成を図るため、奨学金制度である小渕沖縄教育研究プログラムを通して、県内社会人等をハワイ東西センター及びハワイ大学大学院へ4名程度派遣する。 また、同プログラムの周知広報を実施する。						
効果発現年度	■当年度 □後年度(年度)						
実施方法	□直接実施 ■委託 □補助 ■負担 □その他()						
予算額・執行額 【単位：千円】		R3年度	R3年度(繰越)	R4年度	R4年度(繰越)	R5年度	
	予算 の 状 況	(a) 当初予算額	8,280		8,783		11,283
		(b) 予算現額	8,280		8,783		11,283
		(c) 増減額(b-a)	0	0	0	0	0
		(d) 前年度繰越額	0		0		0
		A. 計(b+d)	8,280	0	8,783	0	11,283
	B. 執行済額		7,790		8,724		11,169
	うち交付金充当額		6,232		6,979		8,935
	C. 次年度繰越額		0	0	0	0	0
	執行率(%) (B/A)		94.1%		99.3%		99.0%
予算の状況の説明		・執行率は99.0%であり、概ね計画的に執行できた。					
活動目標 (指標) 及び進捗状況	R5活動目標(指標)		進捗状況				
			R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	
	①小渕沖縄教育研究プログラムの周知広報・説明会の開催数 ②同説明会の参加人数 ③小渕沖縄教育研究プログラム応募人数	目標	—	—	①3回以上 ②50人以上 ③5人以上	①3回以上 ②50人以上 ③5人以上	
		実績	—	—	①10回 ②105名 ③5名	①11回 ②113名 ③13名	
	【R2～R3の活動目標】 社会人等をハワイ東西センターへ4名派遣		目標	4名派遣	4名派遣	—	—
			実績	3名派遣	3名派遣	—	—
進捗状況説明	R5年度は、小渕教育研究プログラムの説明会を11回開催し、参加人数総計は113名であった。 また、同プログラムへの応募者が13名であったため、①～③の全ての目標を達成した。						
成果目標 (指標) 及び達成状況	R5成果目標(指標)		基準値 (〇〇年度)	R3年度	R4年度	R5年度	目標値 (〇〇年度)
	修士課程修了(取得)者	目標	—	—	1名	1名	—
		実績	—	—	0名	2名	—
	【R3成果目標】 ①ハワイ東西センターへの派遣 延14名(うち延10名をハワイ大大学院へ派遣) ※H26年度以降からの延数		目標	—	①延14名派遣 (うちハワイ大学大学院10名) ②80%以上	—	—
	②過去派遣者に対しアンケート調査:本事業で構築した人的ネットワークが現在も継続している 80%以上		実績	—	①延13名派遣 (うちハワイ大学大学院10名) ②100%	—	—
	達成状況説明	R4年8月からハワイ大学へ同プログラムで留学している学生2名が、R6年8月に修士課程を修了したため、目標を達成した。					

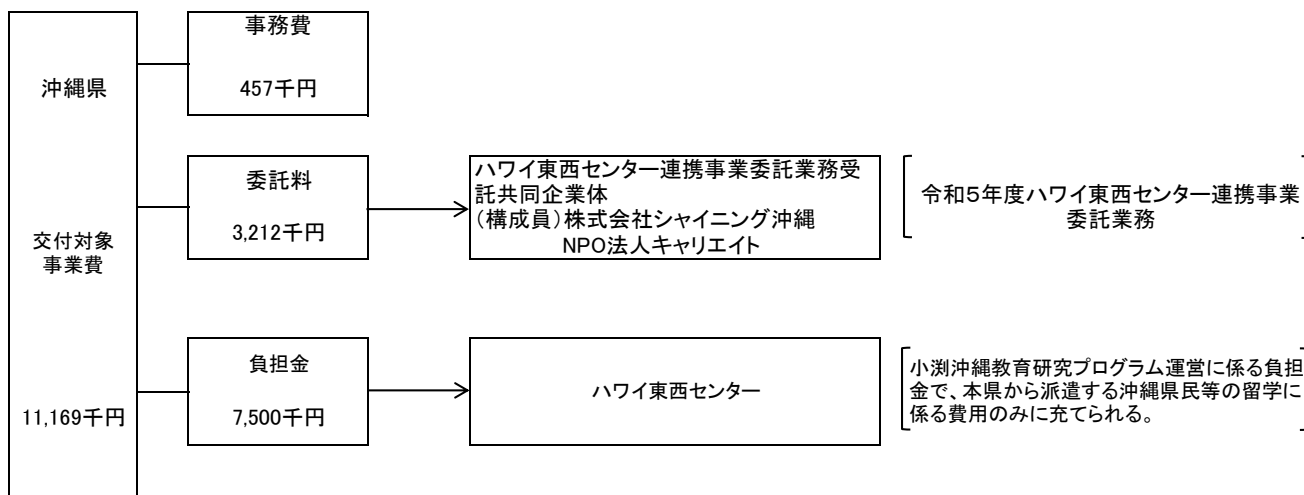
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<ul style="list-style-type: none"> ・ハワイ東西センターへ、ドル建てで支出している負担金(小渕沖縄教育研究プログラムの運営費)が、円安やインフレ等の影響により大幅に変動する。 ・昨今の円安と米国内でのインフレの影響により、個人で留学する場合は莫大な資金が必要となることから、本県における留学へのマインドの低下が懸念される。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も、円安やインフレ等の世界情勢を注視しつつ、同プログラムを長期的かつ安定的に運営していく。 ・大学院留学等を希望する高い意識を持った本県の学生や社会人等が費用を理由に留学を諦めることがないように、県内企業及び県内大学、県外大学に在籍している沖縄県民に向けた広報に引き続き取り組む。

今後の取り組み方針

・「小渕沖縄教育研究プログラム」について、県内外の大学生及び社会人を対象とした説明会の開催、並びに高校生以上を対象とした留学への興味・関心を高めるイベント等の実施のほか、オンラインを活用した広報の実施等、同プログラム内容の効果的な周知広報の強化に努め、将来の本県を支える人材を長期的かつ安定的に育成する。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	うち交付金充当額	うち県負担金	うち市町村負担金	その他	交付対象外経費
11,169	11,169	8,935	2,234	0	0	0



資金の用途の点検・評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	<ul style="list-style-type: none"> ○委託業者は、公募によるプロポーザル形式にて提案内容、業務体制、予算規模などを総合的に勘案して選定しており、妥当であると認められる。 ○費用、用途については、金額の確定時に検査を行い、適正であると認められた。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

令和5年度沖縄振興特別推進交付金事業（県分）検証シート【公表用】

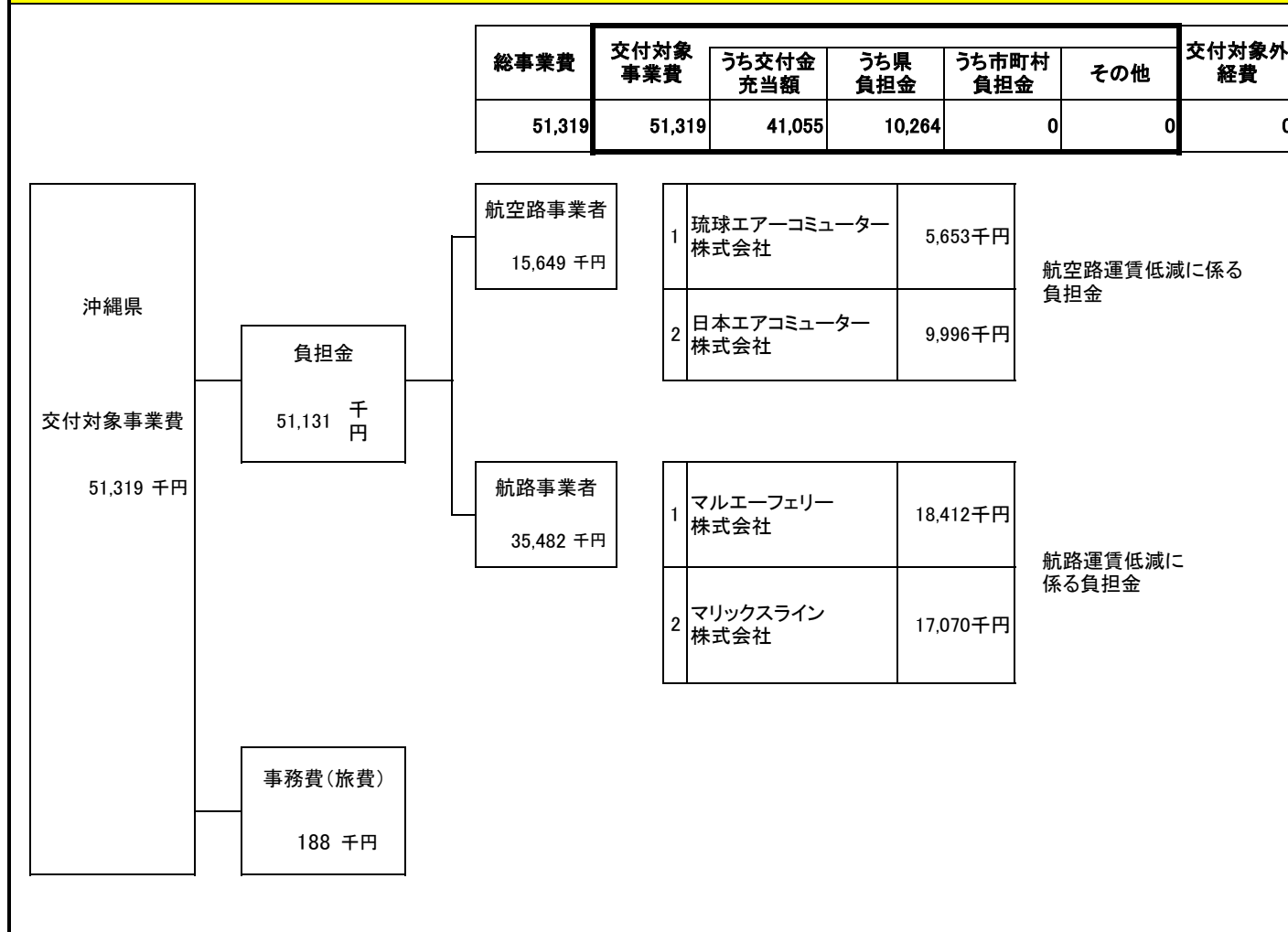
事業番号・事業名	18	沖縄・奄美連携交流促進事業	新沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所 (第4章)	4-(2)-ウ-②			
担当部課名	企画部 地域・離島課	事業実施 (予定)年度	H28～R13 年度	沖縄振興基本方針 該当箇所	沖縄の文化を通じた交流		
事業内容	沖縄－奄美群島間において、両地域の交流を更に促進し、世界自然遺産登録地として一体的に評価されていることを契機とした、両地域間の移動しやすい環境を構築するため、航空路4路線及び航路8路線の運賃低減の支援を行う。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input checked="" type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・ 執行額 【単位:千円】		R3年度	R3年度(繰越)	R4年度	R4年度(繰越)	R5年度	
	予算 の 状 況	(a) 当初予算額	78,359		74,203		61,998
		(b) 予算現額	52,918		64,167		61,998
		(c) 増減額(b-a)	▲ 25,441	0	▲ 10,036	0	0
		(d) 前年度繰越額					
		A. 計(b+d)	52,918	0	64,167	0	61,998
	B. 執行済額		40,367		60,659		51,319
	うち交付金充当額		32,293		48,527		41,055
	C. 次年度繰越額				0	0	0
	執行率(%) (B/A)		76.3%		94.5%		82.8%
予算の状況の説明		・執行率は82.8%であり、主な原因はJALグループが令和5年4月に実施した大幅な運賃体系のリニューアルなどが影響していると思われる。(R5年度の上半期(4～9月)の旅客実績が前年度の同時期に比べて23.7%減となっている。)					
活動目標 (指標) 及び進捗状況	R5活動目標(指標)		進捗状況				
			R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	
	運賃を低減した路線における利用者数 航空路:17,545人	目標	30,500人	19,000人	19,000人	17,545人	
		実績	10,259人	14,668人	20,227人	13,560人	
	運賃を低減した路線における利用者数 航路:44,872人	目標	70,400人	51,000人	51,000人	44,872人	
		実績	17,050人	23,579人	38,808人	45,033人	
進捗状況説明	・航空路は那覇と奄美群島を結ぶ4路線、航路においては那覇・本部から奄美群島を結ぶ8航路で事業を実施し運賃低減を実現した。 ・令和5年度における低減した運賃の利用者数は、航路は45,033人(対目標100.3%)と目標を達成したものの、航空路は13,560人(対目標77.2%)と目標を達成することができなかった。						
成果目標 (指標) 及び達成状況	R5成果目標(指標)		基準値 (〇〇年度)	R3年度	R4年度	R5年度	
	両地域間を旅行(移動)したすべての旅客 者数(住民を含めた交流人口) ・航空路及び航路 115,106人	目標		141,800人	136,350人	115,106人	
		実績		73,385人	111,410人	131,051人	
	達成状況説明	・航空路及び航路において、住民を含めた両地域間を旅行(移動)したすべての旅客者数(交流人口)は現在調査中であるが、「運賃を低減した利用者数」の昨年度からの減少割合で算出すると、目標をした回る予定。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	①令和2年度実態調査では、本事業による運賃低減により利用者の負担軽減、消費拡大、リピーター増加等の効果が確認された。 ②令和3年7月に「奄美大島、徳之島、沖縄島北部及び西表島」が世界自然遺産に登録されたことにより、国内外の関心を集めることが予想される。 ③令和5年8月に鹿児島県及び奄美群島広域事務組合と締結した「沖縄と奄美群島との交流の拡大に係る連携協定」に基づき、両地域のより一層の交流拡大を図る。	①②③引き続き本事業により沖縄－奄美間の移動しやすい環境を確保するとともに、世界自然遺産登録や沖縄の復帰50周年を契機とした交流を促進するため、関係者との協力体制のもと、本事業を周知する必要がある。

今後の取り組み方針

①②③世界自然遺産登録に加え、奄美の復帰70周年を新たな契機とし、更なる連携・交流促進を図るため、両地域の自然や観光等にPR等を鹿児島県と連携して実施する。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)



資金の流 れ、費 目 点 検 評 価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○負担金について、事業者に対し、運賃低減に係る減収分を適正に交付した。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

令和5年度沖縄振興特別推進交付金事業（県分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	185	高校生伝統芸能分野海外就業体験事業	新沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所 (第4章)	4-(2)-ウ-②			
				沖縄の文化を通じた交流			
担当部課名	教育委員会 文化財課	事業実施 (予定)年度	H24～R13 年度	新沖縄振興基本方針 該当箇所	Ⅲ-3-(1)		
事業内容	郷土芸能に取り組んでいる高校生をハワイへ派遣し、伝統芸能を活かした観光産業や歴史的・文化的施設での就業体験をとおして職業理解を深める。実演家としての技術・知識および国際的な視野を持ち郷土芸能を観光資源として活用できる人材育成に取り組む。						
効果発現年度	■当年度 ■後年度(令和6年度以降)						
実施方法	■直接実施 ■委託 □補助 □負担 □その他()						
予算額・ 執行額 【単位:千円】		R3年度	R3年度(繰越)	R4年度	R4年度(繰越)	R5年度	
	予算 の 状 況	(a) 当初予算額	132,975		18,215		18,215
		(b) 予算現額	132,975		18,215		18,215
		(c) 増減額(b-a)	0		0		0
		(d) 前年度繰越額	0		0		0
		A. 計(b+d)	132,975		18,215		18,215
	執行 の 状 況	B. 執行済額	76,415		17,979		18,136
		うち交付金充当額	61,132		14,383		14,509
		C. 次年度繰越額	0		0		0
	執行率(%) (B/A)		57.5%		98.7%		99.6%
予算の状況の説明		・執行率は99.6%であり、概ね計画的に執行できた。					
活動目標 (指標) 及び進捗状況	R5活動目標(指標)		進捗状況				
			R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	
	沖縄県高校生芸術文化国際交流事業派遣人数	目標	—	—	16名	16名	
		実績	—	—	16名	16名	
進捗状況説明	一次書類審査、二次実技・面接審査を通過した16名をハワイへ派遣した。						
成果目標 (指標) 及び達成状況	R5成果目標(指標)		基準値 (〇〇年度)	R3年度	R4年度	R5年度	目標値 (〇〇年度)
	卒業後、生徒が郷土芸能分野、国際的分野及び教育分野に就職を希望したか(60%以上)	目標	—	—	—	60%	
		実績	—	—	—	75%	
	【R4成果目標】 帰国後、生徒が伝統芸能分野、国際的分野及び教育分野に進路を希望するか(60%以上)を含め、当該事業のあり方をアンケートにより検証する。	目標	—	—	60%		
		実績	—	—	93.8%		
	達成状況説明	アンケート「卒業後、郷土芸能分野、国際的分野、教育分野に就職を希望しますか」という質問に対し、75%(16名中12名)が「はい」と回答しており、目標を達成した。					

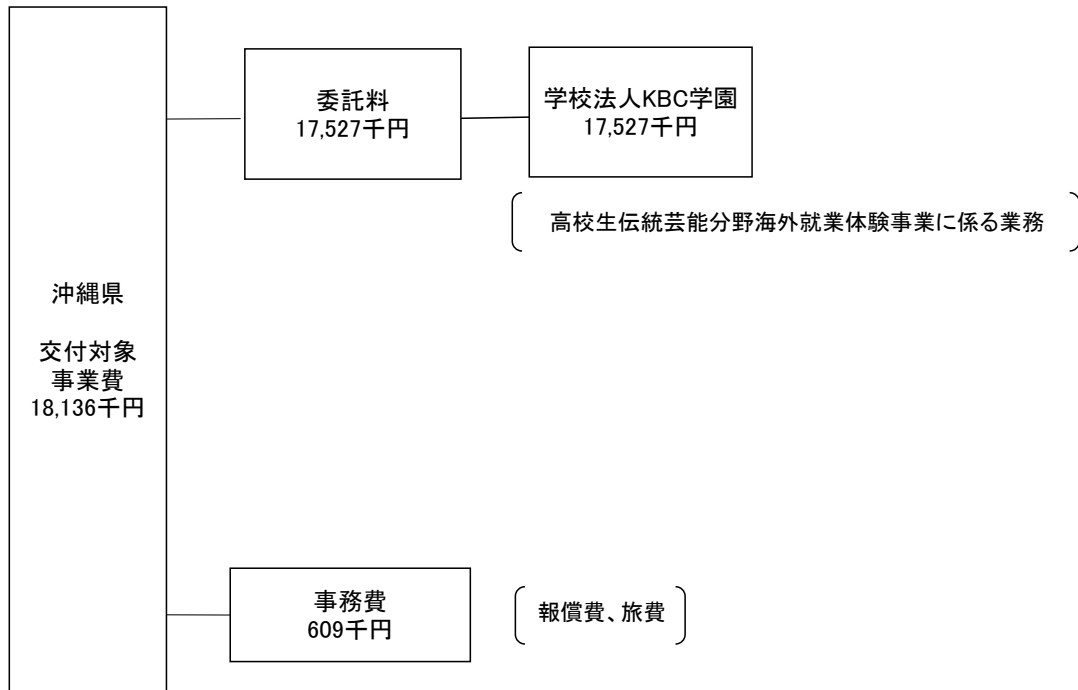
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<ul style="list-style-type: none"> ・研修先において現地大学等での講義や交流校でのコミュニケーション等を考え、語学力の高い生徒や積極性のある生徒を選考したうえで、現地での交流等をより高いレベルで推進するため、事前研修ではコミュニケーションツールとしての語学力を身につける語学研修や積極性を高める取り組みが必要となる。 ・琉舞で選ばれた生徒たちは流派や経験年数など個人差があるため、複数で披露する演目や内容の事前調整を綿密に行い、質の高い演舞を披露できるよう研修内容を工夫する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・外国語講師を活用した語学や異文化理解に関する事前研修の内容を充実させ、自国の文化や歴史について外国語で意見交換できるコミュニケーション能力を育成する必要がある。 ・事前に生徒自身の進路についても調べたり考えたりさせ、研修先では現地の高校生と進路活動についても話し合う機会を設けるなど、将来、観光産業としての伝統芸能の在り方を考えさせる必要がある。 ・外務省および大使館等からの海外渡航情報等を迅速に入手し、委託業者や現地研修先等との綿密な連携を図る。

今後の取り組み方針

- ・現地研修をより深い学びへと繋げるため、披露演目の練習や語学力をより高める研修、観光産業としての伝統芸能についての事前研修を充実する。
- ・選考基準に英語検定(準2級程度)を付し、二次面接でコミュニケーション能力を審査する。
- ・観光産業における伝統芸能分野の在り方について現地の高校生と話し合う機会を設け、職業観を養えるよう本研修を充実する。
- ・テロや感染症等の最新情報を外務省および大使館等から常に入手し、受託業者と現地での緊急時を含めた対応・体制について、綿密な報告・連絡・相談を行う。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	うち交付金充当額	うち県負担金	うち市町村負担金	その他	交付対象外経費
18,136	18,136	14,509	3,627	0	0	0



資金の流 れ、費 用	評価	点 検 項 目	評価に関する説明
資金の流 れ、費 用	○	支出先の選定方法は妥当か。	<ul style="list-style-type: none"> ○委託事業者は、企画提案プロポーザルで事業の内容によって選定したため、妥当であったと考える。 ○予算規模は適正であるが円安や燃料サーチャージの高騰が続くと見直しが必要となる。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	